

私達の持つております祈祷書には多くの礼拝が含まれております。今日はその中で二五八頁にあります、教会問答をみてみたいと思います。教会問答は前の文語の祈祷書で公会問答と言っていたものの口語版で、同時にかかなりの改訂が加えられました。教会問答は堅信式を受ける方々がこれを学ぶことになっておりますが、私達もまた時々、教会問答を見て信仰とは、また主なる神の使命とは、伝道とは、宣教とは、こうしたことについて学ぶのが大切であるといえましょう。

教会問答の第一問は、「教会とは何ですか」という問になっております。先ず最初に私達が集う教会とは何であるのかが問になっているのです。そしてその答えは、「主イエス・キリストにあって神に生きるすべての人の集まりで、神の家族、キリストの体、聖霊の宮と言われています」となっております。ここで教会とは建物や土地のことではなく、人の集まり、主イエス・キリストにあって神に生きるすべての人の集まりであることが示されております。これはきわめて重要なことであります。すなわち教会の意義、魅力、存在全ては建物や土地や文化にあるのではなく、そこに集っている人達そのもの、主イエス・キリストにあって神に生きるすべての人が教会の全てであるのです。従ってまだキリストに連なっていない人々が福音に触れようとする機会を与えたり、救いに入る人々を招き入れるのは私達によってであり、責任であるということです。もし教会に集う人達が魅力を感じさせない、疲れ切った様子であり、自分達が何の喜びも感じておらず、教会に集う人が増えようと減ろうと自分とは関係のない問題だと考えるならば、その教会は主なる神のための教会ではなく、主イエス・キリストにあって神に生きるすべての人の集まりとは言えないのであります。教会とは私達一人一人なのであり、欠けてもよい人が一人もいない、全ての人主なる神によって選ばれ、招かれた人々なのです。

さて、本日の福音書には教会という言葉が出てきました。主イエスがこの世におられたころにはまだ教会はありませんでしたので、この言葉は主イエスの言葉というよりも、マタイが関係していた教会でおこっていた人々の交わりの上での問題を通して起こってきた一つの決断であります。その中で最後の部分に注目してみましょう。

『また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二

人が地上で心をつにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである』

ここに教会に集う人々への大切な教えがあります。教会に集う人々は主イエスにあって心をつにしないで、ということです。そして心を合わせて複数の人が集っているならばご自身もそこにおられるといわれるのです。すなわち主イエス・キリストにあって神に生きるすべての人の集まりである教会は、共に心をつにしていなければならないわけです。心を合わせて主イエスと共にある、それが教会であると言っているのです。

本日私達は心を合わせて今聖餐式をささげております。私達が礼拝できるのは、そしてその願いがかなえられるのを確信することが出来るのは、本日の主イエスの御言葉によるわけです。これからささげる代祷のところで、私達はこの教会に属するすべての人々、また聖公会の教会に属する全ての人々、キリストに属する全ての人々、そして全世界に人々を覚えて祈ります。

この教会のなかで本日礼拝に出席されていない方々が多くおられます。誕生日や洗礼・堅信記念日などの教会の記念日を迎える方もおられます。病気で苦しんでいる方もおられます。悩みをもっている方、信仰的に壁に突き当たっている方もおられます。私達はそのような方々を覚え、共に喜び、共に悲しみ、共に闘い、共に生きようとするのです。それが代祷の意味であり、私達が心をつにした主イエスが共にいる礼拝であり、正しい教会の姿なのです。

私達の教会は、主イエスが望まれた十全な教会の姿を目指して歩んでおります。それが十全になされているとは残念ながら言えません。しかし主イエスが建てられて教会、主イエスが望まれた教会の姿が聖書に明確に示されているのは、私達への大きな恵みです。私達が目指すべき方向が明確に示されているからです。まず、私達が心をつにした祈りと交わりをなすこと、心をつにした業をなすこと、これが宣教の使命を果たすうえで不可欠のことでありましょう。主の導きを祈り、私達の心が治められますように祈りましょう。